opusdei.org

6. 幼児虐殺とは何で すか?それは歴史的 事実ですか?

その残虐性がヘロデについてフラビオ・ヨセフォの語る野蛮さと一致していることは確かである。

2016/09/28

幼児虐殺は、占星術博士の星に関するエピソードの中で、聖マタイ福音書の幼年期の部分に書かれている。博士たちはユダヤ人の王を訪ねてきた(マタイ2.1)。ユダヤ人の王で

あったヘロデは、自分を脅かしうる 者が誰なのかを調べるために策略を 練り、帰りに立ち寄り知らせるよう

博士たちに頼んだ。博士たちが他の 道を通って帰ったことを知ると、 「大いに怒った。そして、人を送 り、学者たちに確かめておいた時期 に基づいて、ベツレヘムとその周辺 一帯にいた二歳以下の男の子を、一 人残らず殺させた| (マタイ 2.16)。この場面はいくつかの旧約 のエピソードを思い出させる。出エ ジプト記によれば、ファラオは生ま れたばかりのヘブライ人の子を皆殺 しにするよう命じたが、モーゼだけ は助かり、後にこのモーゼによって 民は解放された(出エジプト 1.8-2.10)。聖マタイはまた、幼児 の殉教によってエレミヤの預言が実 現したことを語る(エレミヤ 31.15)。イスラエルの民は追放され たが、新たな出エジプトとして主は

新たな地へ導き、新しい契約を約束

した(エレミヤ31.31)。従ってこの

場面の意味は明白である。この世の力がどれほどであろうとも、人間を救う神の計画に逆らうことはできないということである。

ここで、聖マタイの記述以外に情報 のない、幼児虐殺の歴史性について 調べなければならない。現代の歴史 研究においては、"testis unus, testis nullus"一つの証言は役に立た ないといわれる。しかしながら、人 口の少ない小さな村であったベツレ ヘムでの幼児虐殺はそれほど大量で はなく、記録に残らなかったとした 方が考えやすい。また、その残虐性 がヘロデについてフラビオ・ヨセ フォの語る野蛮さと一致しているこ とは確かである。義兄弟アリストブ 口が人気を博したとき絞め殺し (「ユダヤ古代誌| 15と 54-56)、義父ヒルカノ2世(15と 174-178)、他の義兄弟であるコス トバル(15と247-251)、妻のマリ アンヌ(15と222-239)を暗殺し

た。晩年には、息子のアレクサンダーとアリストブロを暗殺し(16&130-135)、自身の死の5日前にもう一人の息子アンティパトロを殺した(17と145)。最後には、王国の何人かの有力者を処刑し、好むと好まざるとによらず、ヘロデの死を泣き悲しむようにした。(17と173-175)

参考書: A. PUIG, Jesús. Una biografía, Destino, Barcelona 2005; S. MUÑOZ IGLESIAS, Los evangelios de la infancia. IV, BAC, Madrid 1990; J. DANIELOU, Los evangelios de la infancia, Herder, Barcelona 1969. pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-6/ (2025/11/20)